

1. 事前指導の概要

セーフコミュニティ国際認証から5年目となる来年度の再認証取得に向け、海外の認証審査員に本市の活動を報告し、データ収集分析、根拠に基づく活動の展開、協働体制等について指導を受けた。
海外の認証審査員は、オンラインで指導を行った。

実施日 令和3年11月15日（月）～17日（水）3日間

場所 西庁舎3階多目的ホール1、2、3

- 概要**
- ① 市長挨拶
 - ② 全体説明（本市の概要、セーフコミュニティ活動の概要等）
事前に全体説明ビデオを提出し当日は質疑応答
 - ③ 外傷サーベイランス委員会の活動報告
事前に活動報告ビデオを提出し当日は質疑応答
 - ④ 6つの分野別対策委員会の活動報告
当日はオンラインによる活動報告と質疑応答
 - ⑤ 海外認証審査員による講評

出席者 白石陽子氏 ※同時通訳を担当
(一般社団法人日本セーフコミュニティ推進機構代表理事)

外傷サーベイランス委員会委員
各対策委員会委員

審査員



パイ・ル氏
(台湾)



ミーガン・ブラザートン氏
(オーストラリア)



グレン・バーバー氏
(ニュージーランド)

2. 開会式



市長挨拶



3か国とつなぎ同時通訳

3. 審査員からの主な意見や指導等

外傷サーベイランス委員会（庶務担当課：市民部 セーフコミュニティ課）



外傷サーベイランス委員会 寺西 寧 委員長

【意見や指導等】

- 市民アンケートは、経年変化をよく把握できるように更新している。
次回のアンケートには、メンタルの部分も入れるとよい。
- 外傷サーベイランス委員会の提言に基づき、各対策委員会がよく機能している。
- 市内在住の外国人といった様々な背景の人ごとにサブカテゴリー的な情報があると各対策委員会の取組に役に立つことがある。

交通安全対策委員会（庶務担当課：市民部 セーフコミュニティ課）



交通安全対策委員会 安部 賢児 委員長

【意見や指導等】

- 交通事故防止の点でこどもの安全対策委員会と連携しているところがよい。
- 交通事故防止の啓発は、「危ない」というよりは、「安全・安心」といったポジティブな表現が有効である。
- 高齢者にやさしい交通環境は、全ての利用者にやさしい環境となるので、高齢者の視点で進めてほしい。
- トヨタ自動車との連携による事故分析と対策の成果が今後楽しみ。

こどもの安全対策委員会（こども部 こども政策課）



こどもの安全対策委員会
吾妻 利雄 委員長

【意見や指導等】

- 妊娠時から虐待についてアプローチしている点については継続してほしい。
- 取組によって市民の意識や行動がどのように変わったかを引き続き見てほしい。
- こどもの交通事故防止で交通安全対策委員会と連携しているところがよい。
- 若い世代の声を反映するために、これから親になる世代に対策委員会に入ってもらおうとよいのでは。

高齢者の安全対策委員会（保健福祉部 地域包括ケア推進課）



高齢者の安全対策委員会
藤本 マチ子 副委員長

【意見や指導等】

- 一人暮らしの高齢者もターゲットにしている点が良い。
- 介護予防教室の会場、参加者ともに増加している点が良い。
- 今後は、自殺予防対策委員会と連携して活動してはどうか。
- 高齢者になる前に各種体操教室を知っていると、高齢者になった時に参加しやすいのでは。
- 各種体操教室に参加すると、「けがが減る」ではなく「健康になる」といったポジティブなアピールをするとよい。

自殺予防対策委員会（保健福祉部 保健所 保健・感染症課）



自殺予防対策委員会
若月 ちよ 委員長

【意見や指導等】

- 若い世代を対象とした参加型の啓発を検討してほしい。
- 自殺予防対策は、色々な方が関われば様々なアプローチができる。
- 若い人たちはどういうルートで情報や影響を受けているのかを見ていくと、これからどのように啓発を進めていけばよいか分かるかもしれない。
- こどもや高齢者といった他の対策委員会と連携し、共通点を探していくとよい。

防犯対策委員会（市民部 セーフコミュニティ課）



防犯対策委員会
新田 大和 委員長

【意見や指導等】

- 犯罪の被害者は、もしかすると市民よりも一時的な滞在者に多いかもしれない。
- 振り込め詐欺の被害者は高齢者に多いので、高齢者の安全対策委員会と連携するとよい。
- 犯罪は対象が広く、いじめやセクハラ、特殊詐欺についても検討するとよい。
- 犯罪被害者のサポートについても考えていくとよい。
- 高齢者など他の対策委員会と連携すると効果があがる取組があるのではないかとよい。

防災・環境安全対策委員会（総務部 防災危機管理課）



防災・環境安全対策委員会
國分 晴朗 委員長

【意見や指導等】

- アンケートの分析から講座や防災訓練の参加者を増やす手法としては、居住年数や参加実績等を聞くことによりアプローチの方法が見いだせる。
- 若い人の参加を増やすために、曜日や日時などの条件設定を整えることが重要。
- 農業の事故防止は、当事者の家族へのアプローチが有効である。
- 対面式での情報伝達が難しい場合は、デジタルで補完するとよい。

4. 全体の講評



講評後の記念撮影

- どの対策委員会も分析したデータを活用しながら重点課題を設定し、解決するために何が必要かをよく検討し取組を行い、前に進んでいることが感じられた。
- 対策委員会の取組では、こどもと高齢者がクローズアップされているので、それらの声を汲み取り対策委員会での検討に反映させることが、活動を進める上で重要となる。
- データ活用の次のステップとして、原因は何だろうということを多面的に見ることにより、取組がより効果的となる。
- 飲酒やドラッグが要因となって起こっている外傷がないかを確認し、本番で質問されてもいようにしておくとうい。